

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 26 年度

事業所番号	2772401010		
法人名	社会福祉法人 聖徳園		
事業所名	グループホーム敬愛		
所在地	大阪府枚方市香里ヶ丘八丁目一番地		
自己評価作成日	平成 26年 9月 20日	評価結果市町村受理日	平成 26年 11月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2772401010-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaiokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2772401010-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 26年 10月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム敬愛は、昭和42年より同地域で活動している社会福祉法人が平成12年に開設した1ユニット7名のホームです。法人全体でサービスの質の向上を目指し、ISO9001(国際標準化機構)の認証を受けています。毎年職員一同でサービス向上にむけた年間目標を設定し、利用者や家族が安心して過ごしていただけるよう取り組んでいます。平屋建ての施設は環境に恵まれ、リビングルームや全ての居室は中庭に面し、日頃から緑や花に親しんでいただいています。利用者や職員は、それぞれ自分の得意なこと好きなことを役割分担し、共同生活を楽しく営んでいます。家族との交流も活発で、行事や運営推進会議などの参加を通じて、家族同志も顔なじみで、気軽に情報交換できるアットホームなホームです。平成25年 初めて看取り介護を行いました、この経験を今後活かす事ができるように、主治医や訪問看護ステーションとの連携を図りながら、前向きに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で永年活躍する社会福祉法人が、「認知症高齢者グループホーム」のモデル事業として、介護保険制度開始と同時に設立し、15年目を迎えます。1ユニット7名のホームは、利用者と職員が家族のように一緒に生活しています。ISO9001(国際標準化機構)認証更新と共に、平成26年度の品質管理目標である「利用者の健康維持及び、快適な生活を支え、事故のない安全な介護に努める」を日々意識して、管理者や職員は利用者一人ひとりがその人らしく生活ができ、また利用者に関わる全ての人が利用者を見守りながら、一人ひとりが主役となり、笑顔と潤いのある生活を過ごせるようにとケアの向上に努めています。全居室が中庭に面しており、利用者は部屋から直接中庭に出て、プランターの花や野菜に水やりができ、作った野菜やハーブが食卓やおやつに添えられ、利用者の楽しみになっています。リビングは、高く広い窓が中庭に面しているため、日当たりがよくて明るく、日中をゆっくり過ごせるゆとりと、利用者が好きなことを楽しめる、なごみの場所になっています。平成25年にホームで初めての看取りを経験し、多くを学び得たことにより、今後の支援に生かし、さらに進化が期待できます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	母体法人の理念に沿って事業方針を定め、理念の実践のために、年度毎に品質管理目標を職員一同で決めて取り組んでいます。平成 25 年度は、「利用者と家族のコミュニケーションの機会を設け、潤いのある生活を過ごしていただけるよう応援する」と定め、面会時には日頃のご様子が伝わるようにアルバムを用意し、行事はコミュニケーションを意識して企画しました。平成 26 年度は「利用者の健康維持及び、快適な生活を支え、事故のない安全な介護に努める」とし、具体的には①研修により知識・技術の向上を図る。②毎日のリアリティオリエンテーションの充実を図る。③ヒヤリハットを活用して事故を未然に防ぐ。について取り組んでいます。理念の共有を促進するために理念の掲示や唱和の上、平成 22 年度から理念を掲載した法人共通の職員手帳を配布しています。この職員手帳は近畿厚生局の法人監査においても高い評価を頂いております。	法人理念である「ヒューマニズムに立って高度な専門性をもって人のためにつくします」に沿って、事業所ごとに品質管理目標を決め、その実現に向けて取り組んでいます。今年度は「利用者の健康維持及び、快適な生活を支え、事故のない安全な介護に努める」をグループホームで掲げています。品質管理目標は、毎年度初めの職員アンケートにより、日々のケアの実践を踏まえて、成果や課題を明らかにし、取り組むべき目標を職員全員で話し合っ	て決めています。目標は、法人理念や基本方針と合わせて事務室に大きく掲示しています。朝礼時に理念や目標を唱和したり、「聖徳園職員手帳」に記載したりするなど、理念や目標を全体で共有化するべく、積極的な取り組みを継続して実施しています。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	平成21年度に目標とした「地域住民と利用者との交流を深め交流の機会を確保する」を継続し、外出時に地域住民との「挨拶運動」も習慣化・常態化しています。地域行事の「とんど焼き」「防災訓練」「さくらまつり」「夏祭り」等に参加し、利用者が地域住民と交流する機会を支援しています。「文化祭」では利用者の作品を展示させて頂き、作品を通じて地域住民との会話が広がっています。また、母体特養で開催される地域交流会に積極的に参加する他、グループホームには毎週1回ボランティアさんが訪問してくださり、利用者もとても心待ちにされて、一緒に歌体操や手芸等に取り組まれています。	地域住民と利用者との交流を深めることを目的にした外出時の「挨拶運動」は継続して取り組み、地域住民との関わりを積極的に行っています。地域行事の「とんど焼き」「さくら祭り」「夏祭り」にも出向き、住民との交流の場になっています。また毎年秋に小学校区で開催される「文化祭」には、かかさず利用者の作品を出展しています。母体特養でのボランティアとの地域交流会にも参加し、ボランティアとの交流も図っています。利用者の重度化に伴い、地域に出向く機会が少なくなってきた中で、地域との交流機会を増やすために、さまざまな工夫や取り組みを行っています。今年の敬老祝賀会には、地域の代表者が来訪し、利用者に祝辞を述べてもらいました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	小学校校区の行事には平成18年度より継続して参加させて頂いています。今年度は医科大学や大学院生の調査研究に協力させて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催する運営推進会議では、利用者の入退去、行事や研修、品質目標の達成度、事故報告、実習の受入れ状況等、できる限りオープンに運営状況を報告しています。運営推進会議構成員以外の利用者家族も多数参加され、家族や地域・地域包括支援センターからの提案や報告を受ける機会になっています。地域の運営推進会議構成員からは地域の行事予定や報告を受けています。また、家族や地域の運営推進会議構成員に制度改定等、情報の提供に努めています。	運営推進会議は、2カ月に1回定期開催しています。参加者は、地域コミュニティ代表、校区民生児童委員、地域包括支援センター職員、利用者家族等で構成しています。利用者家族の参加を促すために、ホーム行事に合わせて開催するなどの工夫をしており、ほぼ全員の家族が参加しています。会議では、利用者の入退居や入退院、職員の研修報告や事故報告などの運営状況を報告しています。家族からは運営に対する意見や提案があり、また地域からは、地域行事などのお知らせや報告など、情報提供があり、ホーム、地域、家族が一体となって、ホームの運営に参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p><b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>事業開始から市の担当課との連携に努め、外部評価調査結果や事故報告書を提出しています。枚方市介護相談員派遣事業に協力し、平成22年より月1回介護相談員様の受入れを継続しています。介護相談員様も利用者様のご状態などよくご理解いただき、利用者様とお話をする中でホームの様子を観察して下さっています。</p>	<p>市の担当課とは、報告書の提出や利用者の認定更新時に連携を図るようにしています。市の保健所が主催する、感染症予防の研修にも参加しています。また市より月に1回、介護相談員を受け入れています。介護相談員も利用者様と顔なじみになり、一市民としての目線で質問があり、ホームや利用者に対する理解を深めています。地域包括支援センターが中心になって設立した、「行方不明高齢者SOSネットワーク」が、市の取り組みに規模が拡大し、ホームの利用者も登録しています。</p>	
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>法人全体の方針として「身体拘束をしないケア」を目指しています。身体拘束に関する研修も毎年欠かさず実施しています。玄関の施錠に関しても利用者様の安全確保を重点に置いて、状況にあわせて対応しています。</p>	<p>「身体拘束しないケア」を目指して、取り組んでいます。身体拘束に関する研修は、年間計画に位置付けて実施しています。身体拘束について、職員は日々のケアを振り返り、何気ない言動が拘束に当たらないか等を話し合っています。玄関の施錠は、利用者の状況に応じて柔軟に対応しています。毎日夕方になると帰宅願望が強くなる利用者には、車で10分の母体特養へ一緒に夕食を取りに行くなど、利用者の思いを遮らないように、制限しない取り組みに努めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>年間の職員研修・教育計画に「虐待」に関する研修は必ず挙げ、実施しています。また、高齢者虐待に関するニュースについても是正予防処置として取り上げ、職員間で話し合います。虐待事例に触れることで自分たちのケアを再点検する機会としています。特にグレーゾーンの虐待と境界のケアについては、研修の実施や実際のケアの場面で虐待に当たるかどうかを職員間で話せるような人間関係を作る努力をしています。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>            管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在、成年後見人制度を利用されている利用者が1名おられます。制度利用の必要性がある利用者については機会があるごとに職員や地域包括センターと相談しています。平成25年3月の運営推進会議では地域包括センターや利用者の後見人の方から成年後見人制度についてご説明頂く機会がありました。職員のみならず、利用者家族にも理解を深めて頂くことができました。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際には重要事項説明書に沿いサービス内容等についてご説明しています。解約については家族と十分に話し合い、理解・納得の下に行います。利用料の改定時には、家族に説明の上、同意書を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に多数の家族が参加して下さり、ご意見・ご要望を確認できる場となっています。サービス計画書の更新の際や必要時には、お電話や面会時に家族の意向・要望を伺っています。他にも、事業者独自のアンケートを無記名で実施し、利用者や家族の声を表出する機会になっています。アンケート結果は運営推進会議で報告します。アンケートの分析を次年度の事業所目標設定などに反映させる事もあります。また、お申し出があり、行事内で有志の家族による演奏会を開催して下さいました。苦情等言いにくいことに関しては、ご意見箱を設置し、苦情担当者等申し立ての連絡先を掲示しています。	運営推進会議には、毎回多くの利用者家族の参加があります。会議では、災害時の安否確認や、ホームの運営に関する提案、利用者の健康面や状況についてなど、意見交換や感想を得ています。家族参加の行事や運営推進会議、家族がホームへ訪問した際、積極的に意見や要望を確認する機会としています。ホーム内に「ご意見箱」を設置していますが、投函や苦情はほとんど無い状況です。また、利用者や家族の意向を確認する取り組みとして、年に一度、無記名アンケートを実施しています。利用者の思いは、会話や表情等、日々のケアの中から把握しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、毎年管理者に非公開でそれぞれの職員の意見や異動などの希望を聞く機会を「自己報告書」の提出にて実施しています。他に、適宜「業務改善提案書」に意見や提案を記入して直接代表者に提出する制度があります。 管理者は、毎日の申し送りや職員会議等でそれぞれの職員の意見を聴き、職員は日常的に気軽に提案しています。年間行事や研修計画等は職員で話し合って決定します。職員の意見を反映して芝刈り機や扇風機の購入、設備・備品の修繕を行い、年1回業者による絨毯の洗浄が導入されました。	職員意見は、毎日の申し送りや職員会議、カンファレンスの中で聞き取っています。管理者は、日常的に意見や提案が出しやすいように努めています。「事故報告書」「業務改善提案書」で意見や提案を直接法人代表者に提出する機会があり、代表者からは個人名を伏せてフィードバックされる取り組みになっています。職員の法人内異動についての希望は、スキルアップの観点を重視し、反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、それぞれの職員に対し公平に評価するために職場環境の整備に努めています。そのために、年に2回人事考課を実施し、適宜その考課項目の改定を行います。考課後には、管理者が職員個々にフィードバック面接を行い、働き方の希望や目標の確認等を行います。資格取得者に対する資格手当や給与水準が上がるよう努力をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は職員の取得資格の把握や人事考課によるケアの力量の判断により、職員の段階に応じた研修受講の機会を持っています。平成 24 度に管理者の交代があり、管理者が認知症対応型サービス管理者研修、認知症介護実践研修実践リーダー研修を受講致しました。事業所内研修は職員の学びたい事を話し合っって年間計画を策定し、それぞれが講師を担います。法人内の専門職に講師を依頼する事もあります。また、平成25年度に母体特養の研究発表を見学し、平成 26 年度には当ホームも研究発表にチャレンジする予定です。このように職員のスキルアップを図っています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者をはじめ職員は、地域のグループホーム連絡会への参加や事業所が所属している全国や大阪府内の同業者団体の研修や定例会等に参加しています。それら同業者との交流は、職員を活性化させ、自らのケアを振り返り、事業所のサービス向上に効果があるものと認識しています。</p> <p>平成25年度には大阪認知症グループホーム協議会主催の相互研修に職員が参加し、他施設のケアに触れ、学んだよい取り組みを当ホームでも実践しています。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居希望の方の見学の際、可能であれば本人の同行を勧め、ホームの雰囲気を感じていただきます。新入居者に対しては、入居前に自宅や場合によっては利用されている居宅サービス事業所へ出向きます。家族や居宅サービス事業所から情報提供して頂き、性格などを理解した上で、本人に話を伺い、本人の安心に繋げるようにしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能であれば在宅の介護支援専門員から情報提供して頂き、家族のニーズの把握に努めるとともに、面接時に立ち会って頂く事で、家族が話しやすい雰囲気を作り、不安軽減を図ります。相談時には出来るだけ管理者が家族と面談し、家族の要望を伺うようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者が必要とする支援を見極め、適切なサービスや相談機関、医療機関の紹介など行っています。またグループホームの利用を急がれている場合、他のグループホームの待機情報などを持つ地域包括支援センターを紹介することもあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意なことや希望する活動を支援することで、役割を持ち、他利用者と協力し合い、生き生きと毎日を過ごしておられます。利用者のできる事を見極め、掃除や調理の手伝い、庭の水やりなどを行い、職員と利用者は互いに協力し楽しみながら、良好な関係を維持しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は常々本人の体調や暮らしぶり、他利用者との関係について家族に報告しています。可能な家族は往診や通院に付き添われ、体調把握に努められています。認知症の進行に伴い、どうコミュニケーションをとればよいか悩んでいる家族がおられた事から、平成25年度の品質目標に「利用者と家族のコミュニケーションの機会を設け、潤いのある生活を過ごしていただけるよう応援する」と定めて、本人と家族の良好な関係の継続を支援できるように関わりました。また、運営推進会議と行事を同日に行い、家族が参加しやすいように工夫しています。家族同志で交流を深め、お互いに情報交換し、本人を支えていく努力をされています。行事内で有志の家族により演奏をして下さり、利用者もとても喜ばれていました。他に、家族に看取りについても考えて頂く機会をつくり、最期まで共に本人を支える関係作りを目指しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>職員は、馴染みの店や人のいる場所が、利用者にとって安心と安らぎをもたらすことを理解し、外出支援や面会の推奨をしています。可能な限り、入居前から関わりのあるかかりつけ医に診て頂いています。入居前に利用していた美容室に通えるようにサポートしています。時々、入居前のお友達や遠方から孫・ひ孫が面会に来られます。入居前に利用していたデイサービスを訪ねて、友人や職員とお話される事もあります。近隣のスーパーの店員と利用者は、顔馴染みになっています。</p>	<p>利用者の家族は、運営推進会議以外にも多く面会があります。また、友人も来訪しており、ホームとして訪問を快く歓迎しています。食材購入に出かける、近くのスーパーの店員とも馴染みになっています。入居前からの美容室に行く利用者や、母体特養の訪問理容が馴染みになっている利用者もいます。大人の塗り絵のはがきを、家族や友人に郵送できないか考慮するなど、馴染みの関係が途切れない支援を行っています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>毎日の引き継ぎや毎月のケースカンファレンスの際には、利用者間の人間関係について意識して職員間で情報収集に努めています。共に生活活動を行う中で支え合う関係も築けています。必要に応じて職員が口添えし、席替えを行い、利用者が孤立しないように配慮しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームから病院や特別養護老人ホームに移行される際には、必ず書面で情報提供し、連絡がとれるようにしています。特に特別養護老人ホームへ転居される場合は、面接に立ち会い、関係者に習慣や好み等を直接伝えます。入所後も必要に応じて職員が出向き、本人が新しい環境に馴染めるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス計画書を作成毎に利用者やご家族に希望や意向の確認を行っています。サービス計画作成後は個別の「ケアプラン・ケアチェック表」に日常生活状況を記録し、実践状況を把握します。アクティビティについては希望外出など、行事を企画する際に利用者の希望を伺います。調理時の献立も利用者と職員で一緒に考えます。毎日のリアリティ・オリエンテーションや食後の会話などから利用者の反応や思いをくみ取ります。家族から伺った昔の生活も参考にします。介護日誌や生活状況表などからデータ収集を行い、職員間で気づきや分析を共有して、利用者の思いや暮らしの実態を把握する工夫をしています。	利用者は重度化により、思いや要望の表出が難しくなりつつありますが、職員は日々のケアの中で、意識しながら利用者にアプローチを試み、反応を見ながら、好きなことや意向を把握できるようにしています。家族の来訪時にも、積極的に利用者の生活歴や好きなものを聞き、確認しています。毎日の会話の中や、「リアリティ・オリエンテーション」を評価し、利用者の意向をくみ取って、ケアの実践につなげています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	機会あるごとに、本人や家族、在宅の介護支援専門員、サービス事業者からの情報収集を行って、これまでの生活を重視し、馴染みの暮らしに近づけるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者の状況を把握するために毎日の引き継ぎ、毎月のカンファレンスはもちろんのこと、日々の記録の記載方法を工夫し、職員全体で情報共有に努めています。記録に関する研修を行い、「共有すべき情報とは何か」、「他者にわかる記録の書き方」などを学び、他の職員が経験した出来事も全職員が把握できるように取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>大阪認知症高齢者グループホーム協議会方式のサービス計画書書式を活用しています。毎日の引き継ぎで利用者の発言や様子を報告し、職員各自の意見を出し合います。毎月のケースカンファレンスで利用者毎に情報を集約し、計画作成担当者と情報交換を行って、モニタリングを実施します。サービス計画書作成毎に意向確認に努め、利用者本人・家族の意向をふまえた介護計画を作成しています。必要時の他、平成26年度からは年1回家族にもカンファレンスに出席して頂き、日々の取り組みや本人の状態報告し、家族の意向を伺います。家族が面会時にサービス計画書について説明し、同意の上、署名を得ています。基本的に3か月に一度は介護計画の見直しを行います。見直した部分は網掛けで表示し、全職員が速やかに周知し、ケアの実践に反映できるようにしています。</p>	<p>サービス計画書は、利用者毎にケアプラン・ケアチェック表を項目に沿って確認し、毎月のモニタリング記録に基づいて、毎月1回利用者全員分のカンファレンスを実施し、職員の意見や情報を集約しながら作成しています。今年度から、年に一度は家族にもカンファレンスに参加をしてもらえるよう、取り組みを開始しました。サービス計画書は、利用者・家族の意向をふまえながら、3か月に1度を基本として、利用者の状況変化の際には、都度見直しを行っています。また、グループホーム協議会方式から、更に必要事項を加えて活用しています。カンファレンスでは、利用者ごとに検討内容の項目を変えて、細やかな確認をしています。見直し後のケアの変更点については、介護日誌の特記事項に記載して、職員全員に周知をしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、介護計画書に連動したケアの実践をケアプラン・ケアチェック表に記録し、活動の様子や特記事項を介護日誌に記載しています。出勤時には必ず前日までの介護日誌に目を通した上で引き継ぎを受けます。平成 25 年にはパソコンソフト「ほのぼの」を導入し、効率化を図りながら、職員全員が記録の重要性を理解し、職員会議、引き継ぎ、ケースカンファレンス、研修を通じて記録や実際のケアの標準化に努めえる事で、介護計画の見直しに反映できるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応して内科・皮膚科・訪問歯科の往診や訪問看護(医療保険)の利用の調整を行っています。必要に応じて地域の薬局が薬を届けて下さいます。毎週来訪して下さるボランティアさんとは利用者も顔馴染みで、歌体操など楽しい時間を過ごします。喫茶店へ行ったり、行事で仕出し弁当をとる事もあります。平成 26 年には初めての試みで家族様と一緒に夕食を食べに行ったり、最近まで法要のために毎月外泊される方もいらっしゃいました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>在宅から診て頂いているかかりつけ医に入居後も継続してかかる方が多くいらっしゃいます。必要に応じて地域の薬局より処方薬を届けて頂きます。散髪も本人・家族の意向に合わせて、入居前に利用されていた地域の美容室や母体法人の特別養護老人ホームの訪問理美容を活用しています。運営推進会議には地域包括支援センターの職員・民生委員の方が参加して下さいます。地域の小学校区の行事へも積極的に参加します。地域のスーパーの店員の方や毎週1回来られるボランティアの方と利用者は顔馴染みになっています。このように地域の力を借りて、利用者の豊かな暮らしをサポートして頂いています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p><b>○かかりつけ医の受診支援</b>                      受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>医療機関の受診は、利用者の以前からの関わりを重視し、利用者や家族が希望する医療機関の受診を支援しています。基本的には家族が受診に付き添いますが、日常生活の様子について説明が必要な場合等には職員も同行します。遠方の医療機関には定期的にFAXにて情報を提供しています。内科(3医院)や皮膚科、訪問歯科から往診に来ていただきおり、かかりつけ医や医療機関とも良好な関係が構築できています。</p>	<p>利用者家族の意向により、入居前からのかかりつけの医療機関を希望の時には、継続受診ができるように支援しています。必要時のみ、内科や皮膚科、歯科の往診も可能となっています。利用者がかかりつけ医療機関に受診の際は、前回受診後の利用者のバイタル記録や、伝えるべき特記事項を管理者が記載した、状況報告書を作成し、主治医に渡せるようにしています。また、医療機関により、バイタルチェックの記録、排泄・睡眠・食事など、8項目の経過記録を受診の際に渡し、連携を図っています。</p>	
31		<p><b>○看護職との協働</b>                      介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>母体法人の訪問看護ステーションと契約を交わし、週1回の看護師やリハビリ専門職員による日常の健康管理や助言・指導を受けています。また、特変があれば訪問看護師に助言を求め、医師に往診依頼をする適切な時期を指導してもらうこともあります。夜間等の緊急時にも相談できるよう24時間体制をとっています。主治医からターミナル等の指示書が出る場合には医療保険の個人契約を締結し、訪問看護を受けられるように支援しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は、病院に書面などで利用者の情報を提供し、退院時には看護サマリー等の医療情報を求めるようにしています。必要に応じて病院に向き、病院関係者との連携を図る体制があります。また、かかりつけ医との情報共有にも努めています。できる限り、早期退院の方針を伝え、本人の精神的安定を図るようにしています。平成25年には本人・家族の意向の下、早期に退院され、初めての看取り介護を行いました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>平成 25 年に初めて看取り介護を行いました。それを機に現在入居中の利用者家族内で延命治療の有無などを考えて頂き、事前に意向を確認していました。希望に沿い、日常生活機能が低下しても、特別医療ケアの必要度が高くない場合は、当ホームでの生活ができる限り継続して支援したいと考えています。場合によっては利用者の身体状況に応じた環境でケアを受ける為に適切な施設が選択できるよう、主治医・看護師の意見も交えて家族に情報を提供したり、家族と相談の上、特別養護老人ホームに入所申込書を提出することもあります。当ホームで対応できること・十分に対応できないことをご理解頂けるように努め、本人・家族の思いに寄り添いし、それぞれの利用者にとって最良の最期の場所がどこかを家族と一緒に熟慮しながら対応しているところではあります。</p>	<p>重度化・終末期の指針を策定し、入居の際に利用者、家族に説明の上、同意を得ています。昨年度、ホーム開設して以来、初めて看取りを経験しました。看取りに際して、訪問看護師との連携を図りながら、ケアについての方角性を職員と話し合い、家族にもカンファレンスに参加してもらおう等、意向を確認して行いました。ターミナルケアに関する研修も実施しています。グループホームは、「自宅」であることから、母体法人からもサポートを受けながら、看取りを実施しました。看取りの経験が、職員の何よりの学びとなり、貴重な体験となっています。この体験を基に、今後も重度化していく利用者を可能な限りホームで見守り、本人・家族の思いを大切にしながら、医療機関や訪問看護師との連携を図り、終末期の支援を今後も実践していく方針です。看取りを振り返り、母体特養で研究発表を行う予定です。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師や職員等が定期的に心肺蘇生法や緊急対応の研修を実施するとともに、急変時対応手順書を作成して備えています。事故発生予防研修として、平成25年には看護師から「高齢者の特性について」、平成26年には理学療法士から「生活リハビリの効果、介助方法」の研修を受けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成していません。避難訓練を年2回実施し、自衛消防避難訓練計画書、結果報告書を消防署に提出しています。適宜、消防の立ち入り検査を受けています。非常口の鍵は常時職員が携帯しています。各居室の掃き出し窓からは直接中庭に出ることができるので、避難体制は比較的安全です。災害時用に水や食料などを備蓄しています。地域に対しては、年2回の防災月間にポスターの掲示や運営推進会議時の交流を通して協力を働きかけています。 平成26年3月には管理者が地域の防災フェスティバルに参加致しました。	災害対策マニュアルを整備していません。消防避難訓練計画書を消防署に届け出をして、避難訓練を年2回実施し、報告書を提出しています。消防署による立ち入り検査も受けています。避難訓練では、職員の体制を考慮して、夜間対応の訓練を重視して行っています。ホームでの避難場所として、各居室から直接中庭に出て、安全な避難誘導を行っています。非常時には、近隣に住む同法人内の職員が、すぐに駆けつけられるよう、連絡体制も整えています。災害時の備蓄として、水やスポーツ飲料、カンパンなど、賞味期限を確認しながら、カセットコンロなどと共に備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の基本姿勢の一つに「人権の尊重」を掲げ、職員姿勢は「礼儀正しく接し、その人の自尊心を大切にする」としています。事務室に掲示するとともに、職員手帳にも記載し、研修の年間計画に毎年組み込んで、全職員に周知徹底を図っています。実際のケアの場面でも職員は、利用者の性格を見極め、尊厳やプライバシーが守られるよう配慮し、記録を含め個人情報の取扱いに留意しています。H26年9月には法人全体研修で「SNS研修」を職員全員受講しております。利用者家族へのアンケートにも「利用者ご本人やご家族のプライバシーについて配慮ができていますか？」という項目を入れています。25年度のアンケート結果では「満足」の評価を多数頂きました。	職員は利用者一人ひとりの尊厳を損なわないよう、誇りやプライバシーを大切に言葉かけや対応を行っています。毎年研修計画に位置付け、職員への研修の実施に努めています。法人の基本姿勢の一つとして、『人権の尊重』、職員姿勢として「礼儀正しく接し、その人の自尊心を大切にする」と示し、掲示して職員に周知しています。法人全体研修で「SNS研修」が行われ、ネットワークの利便性と肖像権の危険性、ホーム外での会話の際の配慮などを学習しています。研修受講に伴い、利用者・家族へ事業所のブログに写真を掲載することにおける、個人情報の同意と職員の個人情報の取り扱いについて、再度同意を得ています。プライバシーの保護については、法人10ヶ条を新たに決め、来年度の職員手帳に盛り込む予定です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で希望外出の行き先、調理の献立、買物での商品選定、サービス計画作成といった自己決定や自己選択ができる機会をたくさん持てるよう工夫して支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな生活スケジュールは定めていますが、その日の利用者の気分や体調に合わせて活動内容を変更をしています。また、利用者の希望や他利用者との関係に配慮して支援します。特に外出時には利用者のご様子を十分に見極めて支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者ごとの服装の好みやおしゃれへの関心の度合により、日々の服装をはじめ、身だしなみにも気を配っています。衣替えや衣類の新調には家族が協力して下さいます。お店に同行して選んで頂く事もあります。散髪は入居前に利用していた近隣の美容院へ通えるように支援したり、母体特養の訪問散髪を利用したりと、家族と相談しながらご希望に沿うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平成22年度に事業所の目標に掲げた「利用者に四季の移り変わり、生きがい、楽しみを感じていただけるような食事を提供する」を継続、支援しています。朝食はホームで調理します。昼・夕食は週6回母体特養から調理済みの副食を搬入しますが、お味噌汁は毎食利用者様と一緒に作ります。週2回は利用者と相談し、旬の食材を使った献立を考え調理します。庭で栽培した夏野菜や果物も食卓に上ります。献立、買い物、調理、後片付けの各場面で利用者と職員は協力し合います。職員は利用者の食事のサポートを行いながら、時間をかけて会話を楽しみ、同じ食事を共に味わっています。	毎日の朝食はホームで調理しており、昼・夕食の副菜は、母体特養から運ばれていますが、ご飯とみそ汁はホームで調理しています。週2回(昼食・夕食)と月2回(手作りおやつ)は利用者の希望を聞き、旬の食材を使った献立を考えて、利用者と一緒に買い物・調理を楽しみながら行っています。食事は、職員も介助や見守りをしながら、一緒に摂っています。誕生日会の献立は、昼食後のひとときに利用者の希望を聞いて決めています。中庭のプランターで、今年の春にはイチゴがたくさん採れ、イチゴソースに調理して、おやつホットケーキにかけたり、夏はなすやピーマンを収穫し、みそ汁やスープなどで食卓を彩りました。外食でお寿司を食べに行ったり、仕出し弁当を注文し、お花見や敬老会に参加することもあります。コーヒーとケーキを食べに、コーヒーチェーン店へ行く楽しみを行事として取り組んでいます。また母体特養にある「こもれび喫茶」にも出かけています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合わせて食事・水分の量や形態、器の工夫をしています。また、定期的な血液検査結果による主治医や看護師、栄養士の指導を受けながら利用者にとって適切な必要量が摂れるようにサポートしています。義歯を新調して刻み食から普通食に戻す事ができたケースがありました。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの大切さを認識し、毎食後に自立度に合わせた口腔ケアを行います。うがいの出来る利用者には、歯磨き粉の他に液体の歯磨き剤を使用していただき、より洗浄効果がある工夫をしています。歯磨きが困難な利用者に関しては、歯磨きティッシュによる口腔ケアを実施しています。就寝前には毎日義歯を回収し、義歯洗浄液を使用しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	<p><b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>個々の生活状況表に排泄状況を詳細に記録し、排泄パターン・習慣・自立度の把握、分析に努めています。カンファレンスや引き継ぎ時などに職員間の情報を共有し、トイレ誘導の間隔を各利用者に合わせて失敗を減らしたり、過不足のない介助を見極めてトイレでの排泄が継続できるように支援しています。適切なオムツの選定にも配慮しています。自主的にオムツの当て方を研究・試行して職員間で共有しました。</p>	<p>生活状況表に排泄チェックを記録して、利用者ごとの排泄パターンを把握できるようにしています。利用者の重度化により、全員が何らかの介助が必要となっています。利用者の自立度により、尿漏れパッド、リハビリパンツ、オムツを選ぶようにしており、安全に配慮して2人介助にするなど、可能な限りトイレでの排泄を支援しています。褥瘡ができやすい利用者の排泄ケアについては、母体特養からオムツの当て方の情報やアドバイスを得て実践しています。</p>	
44		<p><b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>それぞれの利用者に合わせて便秘対策を講じています。安易な便薬の使用は避け、利用者によって食品(オリゴ糖、牛乳、ヨーグルト等)の摂取量や水分量の調整、排泄しやすい環境作り、誘導のタイミングや声かけの配慮、便秘体操を行い、便秘の予防に努めています。便薬使用時には服薬メモを使用して排便状況を複数の職員で確認した上で服用しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月単位で行事に合わせて入浴日を週3回設定しています。入浴を楽しんで頂けるように、バラやつつじ、紫陽花など庭に咲く季節の花を浮かべます。音楽をかけながらの音湯や、季節を感じて頂けるようにすだちやゆず、しょうぶなどの変わり湯を工夫しています。入浴に消極的な利用者は順番や環境の配慮、声かけの工夫、室温の調整等を行います。皆さん気持ちよく入浴され、浴後は笑顔になられています。	基本的には週3回、午後に入浴を実施しています。入浴を好まない利用者には、声かけや浴室で気の合う利用者同士が会うようにするなど、工夫をしています。入浴を楽しめるように、庭に咲くつつじや紫陽花などの花びらを浮かべていますが、利用者は女性のため、バラ風呂が一番人気で、季節を感じられる入浴が好評です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に安眠できるよう、日中の活動支援を利用者の希望や習慣、体調に合わせて合わせながら行います。体力に合わせて必要な方には日中に横になる時間を確保しています。就寝時には安心して気持ちよく休めるよう、室温管理や照明、排泄誘導の間隔などについて、個別に対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>平成 25 年度には利用者全員の服用している処方薬の効能、副作用について研修しました。その後も新たな薬が処方された時には都度その薬について調べて職員で共有し、服用後の様子を観察します。平成 26 年の品質目標に「薬の知識を深める」を掲げ、研修を予定するとともに、誤薬の防止に努めています。診察時には症状の変化や生活状況等の情報提供をしています。歩行時にふらつきが生じた利用者の様子を主治医に報告して抗精神薬の調整をして頂き、生活動作が安定したケースがありました。認知面や飲み込みのレベル低下により錠剤の服用が困難な利用者に対しても、主治医と連携を図って散剤への変更や服用時間の調整をして頂きました。利用者全員の服薬情報を一覧表にして日々の服薬管理に活用しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中にはそれぞれの生活歴や好み、利用者間の役割分担に配慮して、掃除や調理、生け花、花や野菜の水やり等の活動を支援しています。午後にはそれぞれの趣味活動を利用者別に見極めて支援しています。歌うことが好きな利用者の家族は面会時に居室で一緒に歌って下さいます。家族の演奏を録画したDVDが人気で「私の息子よ」「私の娘よ」と楽しそうに皆さんで何度もご覧になられています。それぞれの方の活動と他の方への影響も配慮しながら支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p><b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気のよい日は毎日外出機会を作っています。母体特別養護老人ホームへの食事の受け取りや地域のお店での買物などに同行して頂き、母体特別養護老人ホームの地域交流会や園児交流会、お祭り、季節毎の法要などの行事にも参加します。また、地域の施設を利用した外出行事を企画しています。春には老人福祉センターでのお花見食事会、近隣のテーマパークや公園の散策、希望外食等、ご家族と一緒に外出する機会も多くあります。地域の行事にも参加できるように支援しており、1月のとんど焼きや7月の夏祭りは恒例となっています。10月の文化祭の会場でお友達と偶然に再会され、作品についての話もはずんでおられました。ご家族様には毎月の「敬愛えがお通信」を通して実施状況を分かりやすく報告をしています。</p>	<p>重度化により、利用者のADL(日常生活動作)が低下してきており、外出の頻度が少なくなりつつありますが、近くのスーパーへの買い物や、公園への散歩など、日々の外出を支援しています。月に一度は、利用者全員が外出できるようにサポートすると共に、2か月に一度は、利用者全員が外出するイベントを企画しています。年間を通して季節が感じられるように、春の桜のお花見、藤棚、紅葉などを見に外出しています。家族にも参加してもらえるように案内し、お花見や外食へ一緒に出掛ける機会を作り、楽しめるように工夫しています。日常的には、中庭のプランターの花や野菜の水やりなどで外気浴ができるようにしています。</p>	
50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>喫茶店の利用や本人の買物の際など利用者の理解度に合わせてお金の使用や所持を支援しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠方にお住まいの娘さんからの電話があると笑顔で受け答えされている方がおられます。利用者の希望に沿って電話や手紙のやり取りができる支援をしています。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員は常に利用者が快適な生活を過ごせるよう配慮した支援をしています。ホーム内の至るところに季節に合わせた装飾や観葉植物、花が生けてあり、和やかな雰囲気を整えています。リビングは中庭に面しており、直接出入りができる広いガラス戸からは明るい採光が確保されています。中庭に植えられた木やプランターの草花・野菜から季節を感じることができます。中庭を眺める事が好きな方が複数おられ、小鳥が来ると、他の方に教えておられます。常に外気に触れることが閉塞感のない暮らしを支えています。職員は個々の利用者にとっての快適な場所や人間関係を理解し、寛げるよう支援しています。廊下を気にされる方が排泄に集中できるようにトイレの小窓を塞ぐなどの配慮をしています。玄関やリビングに利用者の作品を展示し、居心地の良い空間作りに励んでいます。	ホームは平屋で、居室とリビングが中庭に面しています。手作りの表札がかかった玄関を入ると、広くて明るく、ゆとりのある家庭的なリビングがあります。椅子やソファを配置して利用者がゆっくりくつろぎ、仲よく語り合える場所になっています。芝生の中庭には永年ホームと利用者を見守ってきた、桜の木が年々大きくなり、春には美しい花を咲かせます。プランターで、バスタイムの演出にも使われる花が季節を彩り、イチゴや野菜、ハーブが栽培しています。車いすでもゆっくり利用できるトイレには、花を飾って気持ちよく使えるようにしています。リビングや廊下の壁には、外出や行事の時の利用者の笑顔があふれる写真や、利用者に人気の花びらを浮かべた浴槽の写真が飾られています。利用者が職員と作った作品が飾られ、気持ちよく過ごせる生活空間になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は、ゆとりをもった造りになっています。中庭を囲むようにL字型にリビングと居室部分が配置されています。リビングで新聞を読む方、傍らのソファで利用者同士談笑する方々と思い思いに過ごせる場があります。気候のいい季節には、中庭のベンチで過ごせます。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室から直接芝生の中庭に出られるように設計されています。ガラス戸を開けると外気を取り入れることも可能です。自宅から使い馴れた机・椅子・タンス・置時計などを持ち込まれる方もおられます。家族の写真や自作の手作り作品の数々を飾るなど、それぞれ個性のある居室になっています。また、掃除やシーツ交換等、自分で作業ができる利用者は、自室整備にも取り組んで頂いています。	居室は全室中庭に面した造りで、部屋から直接芝生の中庭に出られるようになっており、外気浴がいつでも可能です。ガラス戸の内側には内障子があり、和風な雰囲気と日差しを和らげることができます。部屋には、標準装備で大きなチェストとベッドを配置し、利用者は、使いなれたテーブルなどの調度品や持ち込んだ品物で、思い思いの設えになっています。掃除が行き届いて清潔感があり、快適に落ち着いて過ごせる部屋になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部はバリアフリーの造りで、現利用者の状況に合わせた安全配慮を行っています。利用者様の目線に合わせた位置に「トイレ」などを大きく表示し、居室を間違える利用者に対しても、表札を大きくして貼っています。薬品などを管理する倉庫には施錠し、定時に施錠確認しています。入浴前、浴槽の湯をためる際は、不測の事態を防止するため浴室の施錠をしています。夜間帯に頻回に起きる方には常夜灯をつけるなどの配慮を行っています。</p>		